

## 各地区協会「令和7年度の反省と次年度に向けて」

### ① <北信地区野球協会>

#### 1 今年度の重点事業と反省

- ・幼保連携と、北信野球の日、ティーボール大会の2大イベントの企画、実施

#### 2 次年度に向けて

- ・R8年度は秋以降、改修工事でオリンピックスタジアムが使用できず、県協会と共催のティーボール大会を北信として11月に行うことは厳しいので、それを逆手にとって、(しかし、U-10カテゴリーで行うティーボールの普及は3年やってみて本当に重要なことだと感じている)R8年度は、手始めに南長野でティーボールチーム(U-10)をつくり、その後のU-12少年野球チームに入会しやすくしたい。(普及)U-15南長野は事務局で一括して地域展開したので動きやすくやってみる。また、長野市の北を拠点とした北部キッズBBCも北部中の地域の少年野球の枠を超えてU-10のチームをつくり、毎年7月の県大会にも出場している事例もあり、U-12、U-15ともに地域クラブが一緒になって指導者がつながり、子どももつながり野球の普及につなげていきたい。これまで南長野地区U-12西澤理事が中心となって実施して下さったU-10交流大会を協会としてもバックアップしていきたい。

#### 3 その他 協会活動全般、割引制度などについて

- ・正直、北信地区野球協会協賛して下さる、スポーツデポのシンプルな割引(3000円以上購入で500円引き)が使いやすい。ゼビオは使いづらい。(アプリとか登録とか)デポは非常に前向きなので、野球の日と連動して動きやすかったです。
- ・ティーボール大会を共催して、資金面でも補助をいただけてたいへんありがたいです。
- ・上田東御のような資金の運用を参考にしたいです。

#### 4 地区内の中学校部活動の地域移行の状況(できれば野球を含む情報)

- ・木島平中のみ現在、部活でやっているが、実質地域で動いている。他全チーム軟式野球競技は受け皿としてクラブ化完了しました。R2年から協会主体で指導者(中学教員)の話し合いは始まり、長野市を中心に、R8年3月をメにしたので、スムーズにできた。次の段階はどうやって、チーム数を減らして行くか検討している。また、その地域のU-12チームと連携し、U-12U-15地域チームとし、地域展開はゴールだと考えている。(長野北部野球クラブはU-12U-15で一体となって地域展開、ティーボール大会はじめ、技術交流も盛んにしている)地区協会、校長会、郡市教育委員会三位一体となって取り組んできた結晶だと自負している。この移行期は少なくとも中学教員の関わりはマストであり、部活がなくなるとはいさようなら!という教員はいなくて、北信地区は大変素晴らしいと感じている。

### <上田・東御・小県地区野球協会>

#### 1 今年度の重点事業と反省

- ・地区協会最大の普及イベント「第7回上田東御小県野球まつり」では、「うえだ幼児・児童の運動遊びを進める会」と共同で、年長から小2の子どもと保護者を対象とした「柳沢運動プログラムによる親子運動遊び教室」を開催したところ、24組の参加者があり、大変好評であった。イベント全体への参加者が減少しており、新たな企画を考えていく必要がある。

#### 2 次年度に向けて

- ・来年度も、新たな事業を行う予定はないが、一つ一つの事業の内容や周知の方法等を検討し、より多い参加者のもと充実した内容の事業となるようにしていきたい。

### 3 その他 協会活動全般、割引制度などについて

- ・年間多くの事業を展開しているが、これらの事業を継続していくための安定した財源の確保が必要である。
- ・現在、事務局を中学校の職員が行っているが、中学校の部活動の地域展開により事務局業務に影響が出る可能性もあり、事務局業務や備品の管理をする場所などを検討していく必要がある。
- ・県の補助事業により補助金をいただくことができありがたい。今後も継続・拡大していただくようお願いしたい。

### 4 地区内の中学校部活動の地域移行の状況

- ・令和7年1月に令和9年4月から市内の中学校の部活動が無くなる旨の発表が上田市教育委員会からあり、選手・保護者・指導者がたいへん困惑したが、中体連の軟式野球専門部と市教委が連携し、地域展開を地域全体として考えながら準備を進めている。

令和8年4月のチーム数の状況…○中学校部活動 上田市6チーム(7校) 東御市2チーム(2校)

○クラブチーム 上田市1チーム

令和9年4月時点でのチーム数の状況(予定)…○中学校部活動 東御市2チーム(2校)

※休日はクラブとして活動

○クラブチーム 上田市5～7チームの予定

## ③ <佐久地区野球協会>

### 1 今年度の重点事業と反省

- ・今年度も例年並みに「佐久地区野球の日」を計画し、運営できた。
- ・各イベント、運営側の負担が大きい。長く続く形に変えていくべき。例) 普及イベントは各高校と保育園などのコラボ
- ・学童の選手に関する協力に関して、指定された期限までに情報を収集することができなかった。

### 2 次年度に向けて

- ・運営資金をどう確保するかを検討を始めるべき。
- ・今年、佐久地区の小中のチーム一覧を作成しましたが、小学生のチームのマップ作成は必要かなと思います。(裏面に活動場所等 が書かれている) 野球の日で来場された方に配布すれば、もっと周知できると考えます。
- ・担当を明確にし、将来的な活動指針に向かえるように協議しなければならないと思います。特に長野国体について

### 3 その他 協会活動全般、割引制度などについて

- ・割引については、子育てパスポート等との連携で良いと思う。
- ・協会の活動として、練習場所の提供や確保に着手しても良いのでは無いかと思う。

### 4 地区内の中学校部活動の地域移行の状況

- ・佐久市：来年度から休日の地域移行を行う方向で話し合いがもたれているが、人材が集められていない現状。このまま進むと、教員 が半強制的に兼業届けを提出して、実質は部活動として指導していく可能性が出てくる。
- ・小諸市：土日の地域移行に向けて進めているが、人材は確保されていない。小諸東中は来年度、剣道、柔道、陸上部は新入部員の受け入れを行わない。野球部は部活動として行っていく。
- ・南佐久地域(川上村を除く)：サッカー、バスケ、バレーは地域展開をしている。南牧、小海、佐久穂、大日向で合同。
- ・御代田：地域移行に向けて動き出した。R8の4月から段階的に完全地域移行していく。

#### ④ <諏訪地区野球協会>

##### 1 今年度の重点事業と反省（令和7年度の成果）

- ・「第4回諏訪野球・ソフトボール祭り」において、今年も大和電機工業ソフトボールチームと諏訪東京理科大軟式野球部の参加があり、諏訪の野球界の連携、繋がりを広げることができた。イベントの際、未経験者と少年野球チームを繋げる手立て（チラシにQRコード記載）を講じることができた。

##### 2 次年度に向けて（令和7年度の課題）

- ・ソフトボール団体と硬式野球クラブ団体との連携、繋がり
- ・他団体との調整（例）野球祭りへの参加状況 など
- ・SNSを活用した情報発信
- ・野球祭りの内容のブラッシュアップ
- ・諏訪地区野球協会の運営 ※中学校部活の地域移行にともなって
- ・中学校知地域クラブとの連携

##### 2 次年度に向けて

- ・中学校の部活動地域展開にともない、来年度から諏訪地区野球協会の事務局を高校野球部顧問へ移行する。また、諏訪地区には諏訪湖少年野球連盟という中心的な組織があり、連盟の傘下に各市町村の団体があるため、連携しやすい。来年度以降は、今年度以上に多くの組織、大人が関わられるようになると思うので、新たなフェーズに入る。
- ・諏訪地区野球協会としては、11月の野球普及イベントを中心に活動している。その方向性は来年度も継続する。

##### 3 その他 協会活動全般、割引制度などについて

- ・中学校の部活動地域展開にともない、来年度から諏訪地区野球協会の事務局を高校野球部顧問へ移行する。また、諏訪地区には諏訪湖少年野球連盟という中心的な組織があり、連盟の傘下に各市町村の団体があるため、連携しやすい。来年度以降は、今年度以上に多くの組織、大人が関わられるようになると思うので、新たなフェーズに入る。
- ・諏訪地区野球協会としては、11月の野球普及イベントを中心に活動している。その方向性は来年度も継続する。

##### 4 地区内の中学校部活動の地域移行の状況

- ・諏訪市は、R7年1月にオール諏訪という中学校の野球クラブが発足した。岡谷市はすでにR6の新人戦よりオール岡谷で活動中。茅野市は東北クラブと明峰クラブの2チームで活動中。富士見町と原村は合同チームという形で動き出している。野球に関して言えば、地域移行の流れの中で、いつでも移行できる準備は整っているように思う。しかし、他の部活動では、市町村の動きが遅いので、全く先が見通せていない現状にある。

#### ⑤ <上伊那地区野球協会>

##### 1 今年度の重点事業と反省

- ・上伊那野球・ソフトボールの日のイベントには全部で500名強の人が集まり、楽しく開催されたことは良かったが、総経費の圧縮を考えていきたい。・協賛企業廻りが疎かになり、想定以下の協賛になってしまった。・ホームページは作成したが、活用ができなかった。

##### 2 次年度に向けて

- ・野球・ソフトボールの日の内容をブラッシュアップしていく。
- ・底辺拡大としての、幼児野球体験会は継続して行う。う。

- ・中学校部活の地域移行化に対する手助け活動を考える。
- 3 その他 協会活動全般、割引制度についてお気づきの点（自由記述 ※箇条書きでお願いします。）
- ・隣接する地区協会との交流企画
- 4 地区内の中学校部活動の地域移行の状況
- ・現在、上伊那地区の中学校はすべて、部活とクラブ併用制になっていますが、今年の4月から駒ヶ根市の2校（赤穂中、駒ヶ根東中）はクラブで活動する予定です。

## ⑥ <下伊那地区野球協会>

### 1 今年度の重点事業と反省

- ・野球普及イベント「第5回下伊那ボールパーク」は1,137名（児童675名、保護者462名）もの来場者があり、イベントの認知度と期待度の高さがうかがえる。インフルエンザの流行がなければもっと多くの来場者が見込まれただけに残念であった。今回から、中学生のコンシェルジュ参戦、多目的グラウンドでの野球教室の同時開催も実施した。両方とも非常に好評であった。肘検診も参加チームが昨年より6チーム増加（合計16チーム・104名）し、継続的に実施していくことで検診の価値を確かめていきたい。

### 2 次年度に向けて

- ・野球協会として中学生指導者との連携をどう維持していくかが喫緊の課題である。現在下伊那野球協会の役員として運営に携わってくれている中学校教員だけでなく、地域クラブの指導者とどのように連携していくか具体的に検討していく。また、今年度と同じ規模の野球普及イベントは運営スタッフの人員、労力を考えても難しいので新たな形を模索していきたい。

### 3 その他 協会活動全般、割引制度についてお気づきの点（自由記述 ※箇条書きでお願いします。）

- ・協会の活動を持続可能な形で継続的に行なっていくためには運営に関わってくれるスタッフに交通費、日当などわずかでも出せると良い。

（今年度は下伊那ボールパーク、肘検診ともに実施することができたのは大きな一歩である）

### 4 地区内の中学校部活動の地域移行の状況

- ・令和8年度末までに休日の学校部活動を地域クラブ活動へ移行。
- ・令和8年の夏季中体連までは部活としての参加は続くが、それ以降はクラブでの参加予定。

## ⑦ <木曾地区野球協会>

### 1 今年度の重点事業と反省

- ・未就学児のイベントを例年は10月と12月に開催していたが、今年度は10月の暖かい時期に開催し、木曾町にある日義グラウンド・日義体育館を使用して行ったことと、大桑村で森の里の秋祭りが毎年開催されている中にイベントブースを出店するような形で大桑村体育館を使用し、多くの野球未経験の園児児童に参加してください。例年以上に参加して下さったこと
- ・1月の指導者講習会に今年度はyoutubeで有名なAmazingTVさんをお招きしバッティング指導をしていただき、バッティングの実技指導や練習方法を教えていただいた。

### 2 次年度に向けて

- ・今年度繋げた流れを次年度も行ってみる中でより、ブラッシュアップしていく予定

### 4 地区内の中学校部活動の地域移行の状況（できれば野球を含む情報）

- ・元来中学に野球部がなかったため、移行措置は特にしていない。

## ⑧ <塩尻地区野球協会>

- 1 今年度の重点事業と反省
  - ・遊ぼーるについて、活動が拡大できた。
- 2 次年度に向けて
  - ・普及活動を継続していく

## ⑨ <松本地区野球協会>

- 1 今年度の重点事業と反省
  - ・11/16 松本野球の日来場者 600 人超となり大盛況となりました。  
松本市の交流事業、ドミニカ共和国スポーツ交流事業に参加し U15 チーム (MATSUMOTO-ALPINAS) が交流試合を行った。松本地区野球協会の役員も同行し他国の野球状況を視察しました。  
スコアブック講習会、審判講習会を実施し 100 人を超える参加者が受講しました。
- 2 次年度に向けて
  - ・走力向上講習会の実施  
松本野球の日の実施 (セキスイハイム松本スタジアム改修工事 R8 年 11 月～) 実施場所等の検討  
各種、講習会の実施 中学校部活動への協力体制についての検討 (クラブチームの活動について)
- 3 その他 協会活動全般、割引制度などについて
  - ・松本地区では、支援頂ける企業を募り各団体への支援活動を行いたい。
  - ・遊ボール活動にコーチ派遣を検討していきたい。
  - ・松本市スポーツ推進課と連携し公共施設の運動場確保について取得方法などを検討したい。
- 4 地区内の中学校部活動の地域移行の状況
  - ・中学校の部活動について、各学校が連携しクラブチームへの移行が進んでいます。  
(R8 年市内クラブ 4 チームになります)

## ⑩ <安曇野地区野球協会>

- 1 今年度の重点事業と反省
  - ・「あづみの野球フェスタ」で周辺地域の子ども (未就学児、小学生) にボール遊びでいろいろな動きを楽しんでもらう。またそこから一人でも多く、野球に興味を持ってくれるような活動を展開する。  
(反省)
    - ・昨年度に引き続き、天候に左右されない施設 (堀金総合体育館・堀金常念ドーム) 利用は、降雪の場合も予定通り問題なく開催できた。
    - ・フェスタ開催時、リトル・学童の低学年の児童も一般の参加者と一緒にアトラクションを行ったが、経験のない子どもたちは、同世代の子たちの技術を目の当たりにして、力の差を感じ、ボール遊びに没頭できない、とのご意見をいただいた。  
今年度は学童、リトルの小学生の参加はせず、一般の参加者のみの開催とした。参加者はのべで 60 名と決して多くはなかったが、ゆっくりと思う存分ボール遊びを楽しんで帰っていただいた印象を受けた。
    - ・小中高での交流会を開催できなかったのも、来年度の課題としたい。
- 2 次年度に向けて

- ・来年度もフェスタ開催の際には、スタッフは中学生と高校生のみとし、学童・リトルの小学生は、別の機会に中高生との練習会を開催する。
  - ・今年度同様に天候に左右されない施設を利用をする。(R7年度 堀金総合体育館・堀金常念ドーム利用予定)
- 4 地区内の中学校部活動の地域移行の状況（できれば野球を含む情報）
- ・令和5年7月、「オール安曇野野球クラブ」の発足式を開催。同日保護者会も立ち上げ、クラブとしての活動を開始。
  - ・現在は各校の部活動を残しつつ、週末の練習や練習試合をクラブとして実施。(平日は部活動として各校で練習。)

#### ⑩ <大北地区野球協会>

- 1 今年度の重点事業と反省
- ・野球体験会3月の「打ち方・投げ方教室」の実施（現在計画中）
- 2 次年度に向けて
- ・大北地区の子どもが減る中でどのように少年野球や中学野球を存続していくか。
- 4 地区内の中学校部活動の地域移行の状況（できれば野球を含む情報）
- ・大北地区の子どもが減る中でどのように少年野球や中学野球を存続していくか。